

第2章 環境の現況



汐川干潟

第1節 自然環境



アカウミガメの来る表浜海岸の自然観察会

第2章 環境の現況

第1節 自然環境

本市は、愛知県の東南端に位置し、東は赤石山系弓張山地を境に静岡県浜松市および湖西市に接し、南は太平洋に、西は三河湾に面しており、さらに南西方面は、田原市から渥美半島へと続いています。また北は愛知県豊川市、新城市に接して、東西に17.8km、南北に23.9kmの広がりを有し、面積は261.35km²で、県土に占める割合は約5%です。

1. 気 候

太平洋の暖流と、東と北を走る山地の影響により、比較的温和で、気候条件に恵まれています。年間を通じて晴天日が多く、平均気温は16前後、降雨量は年間1,000～1,800mm程度で、農業にとっても好条件といえます。特徴としては、冬季に北西の季節風「三河のからっ風」が吹き、寒さを感じさせますが、雪はまれにちらつく程度で積雪は珍しいことです。

気象状況（出典：平成21年版 豊橋市統計書）

項目		年				
		18年	19年	20年	21年	22年
天気日数(日)	快晴	30	37	45	63	60
	晴	184	186	198	171	184
	曇	111	105	86	92	77
	雨	40	37	37	39	43
	雪					1
降 雨 日 数(日)		122	109	116	108	103
総 降 雨 量(mm)		1,574.0	1,236.0	1,767.5	1,745.0	1,424.5
気 温()	平均	16.2	16.7	16.4	16.5	16.7
	最高	35.1	37.4	35.6	34.5	36.8
	最低	- 2.7	- 0.3	- 1.5	- 3.0	- 1.4
平 均 湿 度(%)		69.6	69.0	71.2	69.0	68.1
平 均 風 速(m/s)		3.2	3.2	3.1	3.2	3.2
最 多 風 向		西北西	西北西	西北西	西北西	西北西

2. 地 形・地 質

本市の地形はおおむね平坦で、東部の山地から台地へ、台地から西部の低地へとゆるやかに傾斜しています。南部一帯は台地を形成し、尾根線を境にして太平洋岸は急な崖となっています。また中央構造線が長野県諏訪湖の南から赤石山脈の西側を走り、豊川沿いに三河湾に至っています。

河川は、東三河地域の主要河川である豊川と豊川放水路が、市北部を東から西に流れて、三河湾へ注いでいます。源流は奥三河の山間部にありますが、市内からも多くの支流が集まっています。豊川は東三河地域の主要な水資源であり、上流域の森林がこれを支えています。また、この他にも静岡県境の弓張山地や台地を源とする多くの中小河川が、農地や市街地を貫いて三河湾へ注いでおり、各地にたくさんのため池が設けられています。豊川・梅田川沿いやその河口付近及び周辺の沿岸地域には完新世堆積物により低地が形成され、軟弱な地盤や湿地が分布しています。

太平洋岸に沿った崖の南側一帯には砂浜が広がり、東は静岡県御前崎から、西は渥美半島の伊良湖岬まで連続しています。外洋であるため波が強く、また山間部からの土砂流入が少ないため、侵食が進んでいます。

静岡県との境の弓張山地は、出入りの多い複雑な山麓線を有し勾配も大きいのですが、構成する岩石が硬いため崩落地や地すべりは少なくなっています。

台地は起伏や傾斜がおだやかで、安定した良好な地盤です。

3. 植 物・動 物

植物の全国分布類型からみると、東海地方、特に伊勢湾をとりまく地域は「周伊勢湾地域」とよばれ、この地域に固有か日本ではここだけという特異な植物もみられます。これらは「周伊勢湾要素植物群」とよばれ、小さな沢筋や傾斜面の湿地を中心に生育します。葦毛湿原はその代表的なもので、シラタマホシクサ、ミカワパイケイソウ、ミカワシオガマ、トウカイコモウセンゴケなどの湿地性植物とともに、ハッチョウトンボや水生昆虫のヒメタイコウチなども生息しています。また佐藤町のナガバノイシモチソウ自生地も貴重で、現在豊橋市以外には全国で5か所しかみられません。

植生自然度の観点からは、太平洋岸に広がる海岸林と、東部丘陵地域の中に存在するカシ林が特筆すべきものです。また特色のあるものとしては、石巻山の石灰岩地植物群落、石巻山東尾根のイヌツゲ大木林、嵩山のアカガシ群落やバクチノキ群落、普門寺のシイ群落、中山峠付近のモミ群落などを挙げることができます。

動物の生息環境も多様です。太平洋岸一帯がアカウミガメの産卵地となっていることは良く知られています。また弓張山地から渥美半島にかけては、サシバを始めとする鳥類の渡りの重要なルートです。汐川干潟は本州最大級の干潟とされており、底生生物が豊富で、シギ・チドリ類、カモ類など水鳥の楽園となっています。山地の沢沿いに広がる森林には、サシバ、アオゲラ、キビタキ、アオバズクなど低山帯の鳥類が生息しています。昆虫類は岩崎地区、多米地区、石巻山周辺の広範囲に広がる樹林帯が生息地となっていて、特に葦毛湿原、石巻山周辺には多く種類がみられます。陸産貝類は自然度の高さや湿気を好むため、石巻山や嵩山地区が生息地の中心になっています。